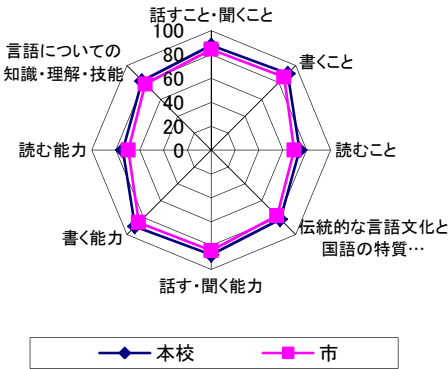


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.6	84.3	81.2
	書くこと	90.7	86.4	74.0
	読むこと	74.1	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.8	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	87.6	84.3	81.2
	書く能力	90.5	86.0	74.2
	読む能力	74.1	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	82.0	78.1	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の領域において、本校の正答率が市の平均正答率の数値を3.3%上回る結果となった。「話し合いの内容を聞き取る」という問題の「司会者の工夫を聞き取る」や「話し合いの流れを的確にとらえて、司会者として適切な発言をすることができる」は、市及び参考値の正答率を上回った。 ●「話の内容を正確に聞き取る」「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」においては、下回った。	・左記のとおり、「話の内容を正確に聞き取る」「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」において、市や参考値を下回っていることから、コミュニケーション力の育成とも相まって、話し手の発言を正確に聞き取り、さらに相手にわかりやすい話し方を工夫する力を身につけるために、あるテーマについて「スピーチ」等をする課題を授業の中に組み入れたり、ディスカッションする時間を確保したりするように心がけたい。
書くこと	○「書くこと」の領域は、作文であったが、本校の正答率は市を4.3%、参考値の数値を16.7%と大きく上回った。文章構成や記述など、さまざまな視点からの問いであったが、ほとんどの観点で85%以上の正答率を収めることができた。 ●「体験をふまえての理由が書かれているか」については、市の平均を上回ってはいるが、他の問題よりも正答率が20%下回った。	・「作文」を苦手とする生徒が多い中、左記の結果は予想以上のものであった。普段から、書くことを意識した授業への取組の成果であると思われる。しかし、文章構成の上で、よりふさわしい具体例や体験の表現の仕方についても指導していきたい。 また、読解の授業でも、根拠を明確にした答え方を意識させることで、さらなる文章力の向上につなげたい。
読むこと	○「読むこと」の領域としては、説明文の内容を読み取る問題と「文学作品の内容を読み取る」問題の2種類があったが、市や参考値と比べて上回っている。 ●総合的に見て74%とやや低い数値である。中でも、文学作品の読み取りの中で、表現の特徴をとらえることは48.9%と低い。説明文の内容の読み取りでは展開をとらえて内容を整理する力がやや低いという結果となった。	・「読解力」は何においても基本となる力であるので、内容把握や読みのスピード、正確さを身につけるためには、やはり読書は有効であると思われる。また、長文に関して、あらかじめ構成や展開のポイントを伝えることで、意識した読みができるように指導したい。その上で、応用力を身につけるために、書く力、聞く・話す力をも含めた総合的な力へと向上させたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「漢字」に関しては、読み・書き、両面において、市の平均正答率を上回っている。 ●「書く」の「招待」の正答率が極端に低くなっている。普段から目にはしていても「語句」「言葉」といった認識が低いと、定着していないと思われる。「文法・語句に関する知識」の助動詞は苦手意識も強いようである。「古典分野」ではやはり内容把握が一番の課題であり、他の項目を大幅に下回った。	・「漢字」では、同訓異字、同音異義語に関する誤答が目立つので、前後の文や言葉の意味を考えさせることで、漢字を正確に使えるようにさせたい。また、「文法」では間違えやすい、文の成分や品詞については、折に触れて、復習の機会をもつよう心がけ、文法に対する苦手意識の払拭に努めたい。「古典」はとにかく慣れることが大切なものなので、「昔話」の原作などで興味を喚起し、古文特有の言い方に慣れていけるよう授業を組み立てたいと考える。